



たま病院 ニュースレター

TAMA Hospital News Letter 2021



乳がんの遺伝子検査を知っていますか？

乳腺・内分泌外科 志茂 彩華

乳がんは、日本全国で1年間に約92,000人が診断されており、今や9人に1人は乳がんになる時代です。女性のがんの中では最も多いがんで、特に40歳代～60歳代の罹患率が高い傾向にあります。実は、男性でも発症することがあり、1年間で約650人が診断されています。乳がんの発生には、女性ホルモンが関わっていることが知られており、初経年齢が低い、閉経年齢が高い、出産経験がない、授乳経験がないなども関連があります。さらに、飲酒、閉経後の肥満、運動不足といった生活習慣も乳がんを発生するリスクを高めると言われています。それらに加え、最近では遺伝子が原因で乳がんになるかどうかを遺伝子検査によってわかるようになってきました。HBOC（遺伝性乳がん卵巣がん症候群）といって、BRCA1、BRCA2という2つの遺伝子のどちらかに変化があるために、一般の人より乳がんや卵巣がんの他、膵臓がん、男性では前立腺がんが発症しやすいのです。乳がんのうち3～5%、卵巣がんでは10～15%がBRCA1もしくはBRCA2の変化によるものです。確率はかなり低そうに見えますが、もしHBOCであったら、80歳までに乳がんを発症するリスクは約70%、卵巣がんでは17～44%となり、がんのリスクを常に抱えながら生きていくことになるのです。

そこで日本では令和2年4月よりBRCA1、BRCA2の遺伝子検査およびHBOCと診断された方に対するリスク低減乳房切除術、リスク低減卵管卵巣摘出術が保険適応となりました。

保険適応となる方

- 45歳以下で乳がんを発症した方
- 60歳以下のトリプルネガティブ乳がんと診断された方
- 2個以上の原発乳がんを発症している方
- 第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がん発症した方がおり、家族歴からHBOCが疑われる方
- 男性乳がんの方
- 卵巣がん、卵管がんおよび腹膜がんの方

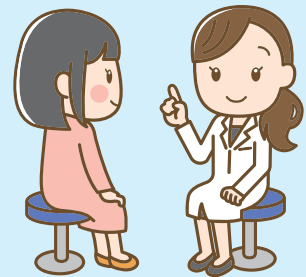
その他の方に関しては、現在のところ保険適応外となっていて、約20万円ほどかかります。

HBOCの診断は、今後の治療やがんの予防はもちろん、血縁者に与える影響など大きく関わってくるので、正しい知識を理解してもらい遺伝子検査を受けるかどうかを話し合います。当院では、聖マリアナ医科大学病院とプレスト&イメージングセンターで遺伝子検査を行っており、HBOCの診断がされた方には、本院での遺伝カウンセリングを受けてもらい、遺伝に関する不安や悩みを聞き、適切な診療科と連携を図ることで、心理面や治療、予防をサポートしていきます。

部門紹介

乳腺・内分泌外科

乳がんになる方はとても多い時代なのですが、乳腺・内分泌外科医はまだまだ少ないのが現状で、当院では常勤医師が1人です。主に、乳がんの検診、診断、検査、治療を行い、聖マリアンナ医科大学病院とプレスト&イメージングセンターと密に連携して、診療を行っています。手術についても、大学病院の医師と十分な設備のもと行っています。また、甲状腺、副甲状腺腫瘍についても診断、検査を行い、手術適応であれば、大学病院に依頼し行うことができます。乳がんはがんの中でも性格が良いタイプが多く、早期発見できれば完治を目指せます。ぜひ、多くの方に検診を受けていただき、早期発見、早期治療の役に立てればと思っています。



動画版

市民健康講座のご案内

当院では市民への医療や健康に関する啓蒙活動の一環として、院内で市民健康講座を定期開催していましたが、コロナ禍により直接参加による開催が難しくなりました。

そこで、川崎市が管理するインターネットのYouTube内「川崎市チャンネル」で「10分でわかる健康講座～放置しない！体からのSOS～」と題し、Web版市民健康講座を順次更新しております。ホームページや地域情報紙・タウンニュースに動画（QRコード付き）を掲載しておりますので、既にご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。川崎市チャンネルでご覧いただく動画は、講義の要点が簡潔明瞭であり、また、耳が不自由な方などへの配慮として、画面を見ていただくだけで講義内容が把握できるようスライドのみで構成されています。Web版へのリニューアルにあたり、人間ドックや職場などの健診で要再検査となった方が、検査結果の見方や注意したい病気などの情報を手軽に習得できることをテーマにいたしました。

健康への関心が高く、自学を始められている方にもご満足いただける内容になっております。当院ではこれからも皆様の健康づくりのお役に立てるよう努めてまいります。

